

「ナンバーワンよりオンリーワン」

ペトロの手紙— 4 章 7～11 節

聖学院キリスト教センター主事 久保哲哉

「ナンバーワンよりオンリーワン」。この言葉は私が男子聖学院中学校・高等学校に通っていたときに、校長であり牧師であった林田秀彦先生が、いつも語っていた言葉です。お会いする度に口癖のようにおっしゃられていたことを懐かしく思い出します。

私は聖学院大学に勤めはじめてまだ1年目ですから、大学創立 30 周年を覚えて何かを語ることはできないと思っていましたが、一つだけ、皆さんにお伝えできることがありました。それは「聖学院大学で働く」ということが示されたときに出会った、ある文書のことです。その文書は 2002 年に制定された「聖学院教育憲章」というものなのですが、太字にした部分「聖学院教育の理念」の部分をご覧ください。次のようにあります。

[聖学院教育の理念]

聖学院は、一人ひとりが神からかけがえのない賜物を与えられているという確信に基づき、それぞれの固有な賜物を発見することを助け、個人の人格の完成へ導く教育をします。聖学院教育はナンバーワン教育ではなく、オンリーワン教育であり、そしてそれはオンリーワン・フォー・アザーズ(他者のために生きる個人)の教育です。

これを見たときに先ほどの「ナンバーワンよりオンリーワン」という言葉を思い出しまして、大学 30 周年の根底に流れるこの精神についてお話したいと思い、奨励題といたしました。

「ナンバーワンよりオンリーワン」

みなさんはこの言葉を聞いて、どのように思われるでしょう。私は中高生のとき。いや、大学生のころもでしょうか。絶対に逆の方がいい。つまり「オンリーワンよりナンバーワン」の方がいいだろうと思ったものです。「ナンバーワンになれない」から負け惜しみで「オンリーワン」と言っているのだろうとも思っていました。確かに、どんなに頑張ったところで能力的に限界がある、というのは自分自身を鑑みても本当のことなのですけれども、だからといって、最初からナンバーワンを「目指さない」など、健全ではない。甘えとも思っていました。

けれども、牧師としていろいろな体験をするうちに気づかされたこと。それは、本気でナンバーワンを目指す、心がギスギスしてしまうということです。ナンバーワンになるためには競争相手を蹴落とさなければなりませんし、心も体もいろいろと無理をしないとイケないでしょう。

けれども、神様からいただいた賜物をしっかり生かして、人を蹴落とすのではなく「互いに仕えあう」ということ。欠けを埋めあうことでもって、ナンバーワンになるよりも輝かしく、尊く、美しい生き方があるのです。聖書は次のように語ります。

「あなたがたはそれぞれ、賜物を授かっているのですから、神のさまざまな恵みの善い管理者として、その賜物を生かして互いに仕えなさい。(ペトロの手紙一4章 10 節)」

ここに集うみなさんはすでに「オンリーワン」となるための賜物を授かっているのです。自分には才能がないとか、他人と比べたときに、秀でたものがないとか、悩む必要はありません。「あなたがたはそれぞれ、賜物を授かっている」のです。…これは希望の言葉でしょう。その点で思い起こすことが一つあります。それは以前、幼稚園で働いていたときに20歳になった卒園生が成人の挨拶にやってきたときのことです。4月からディズニーランドで働くことになったと報告をしてくれました。女性でしたから、きっとキャストとして働くのだろうと思っていたら、メカニックとして働くというので驚きました。それで、当時、年長の担任の先生に、どのような子どもであったか聞いてみると「幼稚園でネジを回すのがとにかく好きだった」ということでした。また、お母さんがディズニーランドが好きだったとも聞きました。

自分の娘が幼稚園で、友だちと遊ばずにネジばかり回していたら止めるのが普通だと思います。「もっと外で遊んだ方がいいよ」とか「あっちで友だちと一緒に遊ぼう」とか声かけをしそうなものです。でも、幼稚園の教師も、家庭でも、彼女のねじ回しを止めなかったのでしょうか。キリスト教主義でなされる保育の底力を感じます。ただ、一人でネジを回しているだけでは地面に賜物を埋めているようなものでしょう。それでは自分の楽しみで終わってしまって「ネジ回し」にそれ以上の意味が生まれません。しかし、世に出て行って、その賜物を生かして「他者のために」働くとき。その人の人生は光輝くのでしょうか。

夢と魔法の国で、幼いころから好きであった「ネジを回す」という賜物を用いて、子どもたちの笑顔のために働く姿を想像すると、胸が熱くなります。きっとお母さまも喜ばれていることでしょう。

ここに集う皆さんにも、一人ひとり、神様から賜物を授かっています。まだ小さな種かもしれませんが。けれども、必ずあるのです。これは信仰の言葉です。聖学院教育115年。大学30年の歴史は伊達ではありません。多くの学生・生徒・児童たちがこの言葉に支えられて、元気に社会で活躍しています。聖学院大学で学ぶ皆さんも、この4年間で神様の支えによってみなさんの「オンリーワン」な賜物が探し当てられ、これが磨き、厳しい社会を走りぬくための準備が必ずや整えられることでしょう。

「ナンバーワンよりオンリーワン」。どうぞ心にお刻みいただければ幸いです。

2018年10月4日 聖学院大学 全学礼拝シリーズ礼拝「創立30周年を覚えて」